

「顔が見える木材での家づくり」
グループ30選に選ばれる

財団法人日本住宅・木材技術センターは、地域関係者（山林所有者、素材生産業者、森林組合など）が連携したグループによる地域材および地域の技術を使用した家づくりの活動について、消費者などに推奨できる家づくり活動を実施しているグループを募集し選定委員会において、30グループを選定しています。2008年度では、「さんむフォレスト」が、グループ30選に選ばれました。

地域に根ざす住まいづくり

さんむフォレストは、山武地域を中心に活動する、地産地消の住まいづくりを提唱するグループです。地元の技能者が、地元のサンブスギを使って伝統的な構法の家を建てることで、健康的で耐久性の高い住まいを提案しています。

メンバーは全員建築士ですが、その立場は建築家、材木商、大工などさまざま。住まいづくりが、林業の支援となり、技能継承の場となつて、資源循環型の地域の要となることを目指しています。



サンブスギを使ったモデルハウス

サンブスギを余すことなく使って

さんむフォレストが提案する住まいでは、杉を灰になるまで使い切ります。吹き抜けた骨太の空間に薪ストーブを据え、残材を焚き木として活用して、エアコンのいらぬ暮らしを可能にするのです。機械に頼る省エネではなく、環境と共生する暮らしを実現します。産業廃棄物とされてきた残材をエネルギーとして利用することは、森林と暮らしを結びつけ、林業再生の決定打となるのではないかと考えています。

【2009年版グループ30選より抜粋】



森林ウォッチングやシンポジウムなどを頻繁に開催している。山武市の材木商と工務店がつくった有限責任事業組合(LLP)グループ「木と土の家」とも協力して、運動を展開。



さんむフォレストと、有限責任事業組合(LLP)グループ「木と土の家」から貸与しているサンブスギで作った積み木は、子どもたちもお気に入り(大富小学校)

